

いじめゼロミーティングと学習会

7日、6年生が「伊方町いじめゼロミーティング」に参加しました。この会議は、伊方町内の児童生徒一人一人が、いじめを絶対に許さないという強い意志を持ち、いじめゼロの実現を目指して、いじめ問題を自分事として主体的に考え、根絶しようとする態度を育むことを目的としています。

今年度は、生徒会や児童会の代表が庁舎に集まり、それぞれの取組や考えを発表しました。

子供たちは、NHK for School の配信動画「そのいじり、大丈夫」を視聴し、シンポジウム形式で「いじり」について考えました。日常の中で、つい友達に対してしてしまう「いじり」。それは、学校生活の中で子供たちも思い当たることが多い行為です。その「いじり」がいじめにつながる可能性はないか、望ましい人間関係を築くためにはどんな点に注意すべきか、子供たちは、自分たちの行動を振り返りながら真剣に考えていました。



先日、町見公民館で行った学習会では、「リスペクト アザース」という動画を視聴し、人権について考えました。この動画は、中学生の実体験を基に制作されています。主人公の帰国子女の少年は、強い同調圧力を感じる教室、違いを認めない級友、失敗に寛容でない部活動など、これまで経験したことのない不自由さに直面し、日本の学校生活にうまくなじめません。そんなとき、彼の心に浮かんだのが「リスペクト アザース」という言葉でした。この言葉は「他者を敬い、大切に」という意味です。かつて彼が海外で通っていた学校では、様々なルーツを持つ子供たちが集まり、常に「リスペクト アザース」と言われていました。主人公は、自分もまた同調圧力に負けて級友に不寛容な態度をとっていたことに気付き、まずは自分から「リスペクト アザース」の精神を行動に移していくことを決意します。



学習会に参加した児童からは、「自分も友達を大切にしていきたい」という感想が寄せられました。

今回の活動をきっかけに、自分も他人も大切にする気持ちを養い、これからの学校生活でいじめにつながる「いじり」に敏感になり、より良い集団をつくる意欲や態度を育てていきたいと思っています。